

令和7年度 第46回 沖縄県学校体育研究発表大会

「12年間の系統性を踏まえた体育科・保健体育科の授業」

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (小学校編・中学校編)



| 小学校編 | | 中学校編 | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 国語 | 社会 | 国語 | 社会 |
| [PDF 5.47MB] | [PDF 6.62MB] | [PDF 4.13MB] | [PDF 8.34MB] |
| 理科 | 理科 | 理科 | 理科 |
| [PDF 4.80MB] | [PDF 3.53MB] | [PDF 3.22MB] | [PDF 4.57MB] |
| 数学 | 音楽 | 数学 | 音楽 |
| [PDF 3.40MB] | [PDF 3.68MB] | [PDF 3.20MB] | [PDF 3.56MB] |
| 道徳 | 美術 | 道徳 | 美術 |
| [PDF 4.68MB] | [PDF 4.90MB] | [PDF 5.21MB] | [PDF 6.57MB] |
| 体育 | 外国語 | 外国語 | 総合的な学習の時間 |
| [PDF 4.86MB] | [PDF 3.54MB] | [PDF 3.85MB] | [PDF 3.84MB] |
| 総合的な学習の時間 | 特別活動 | 特別活動 | |
| [PDF 3.96MB] | [PDF 8.97MB] | [PDF 3.20MB] | |

1

桐蔭横浜大学 スポーツ科学部
学部長 教授 佐藤 豊

九州体育・保健体育ネットワーク研究会
<https://kyushunet.com/?from=m>

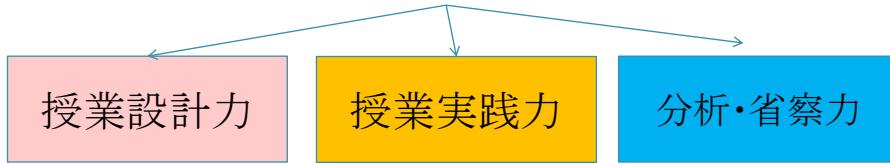
1. よりよい授業づくりに向けて



2

2

教師に求められる授業における実践的指導力



- 学習指導要領
理解と解釈
- 年間指導計画
総説・教育理念
- 単元構造図
・指導内容の特定
・評価規準の設定
・学習過程と内容
- 教材開発力
- 学習指導案

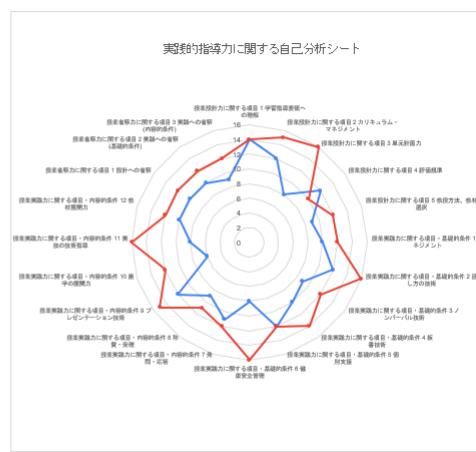
- 基本的教授技術
発声、視線、表情
指示、説明、板書
巡回指導、安全管理
マネージメント
- 内容的教授技術
発問・応答、称賛・受理、師範技術、適切な教材の選択、授業展開力、危機対応

- 量的データの記録法
期間記録、相互作用
- 授業分析力
ビデオ分析
学習指導案からのリフレクション
- 内省的思考力
自身の課題と解決策の具体的方略の立案

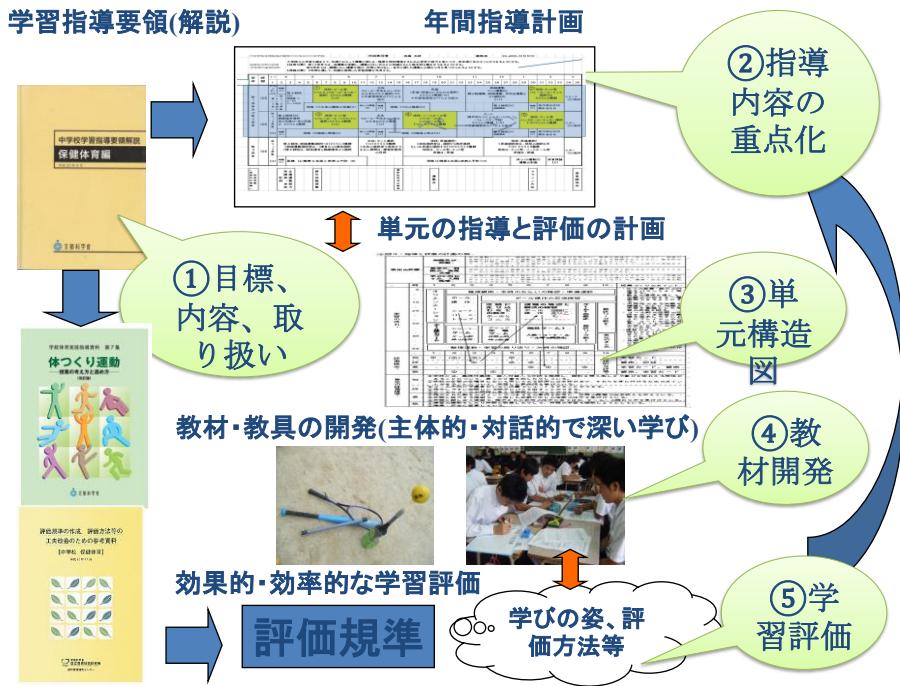
3

実践的指導力の分析

| | | 未練目赤 | 赤線目赤 |
|---|-----------------|------|------|
| 教 育 指 導 方 法 計 画 力 | 1 実習指導要領への理解 | 14 | 14 |
| 授 業 計 画 力 | 2 カリキュラム・マネジメント | 13 | 13 |
| 授 業 実 施 行 力 | 3 営業力 | 13 | 13 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 4 評価力 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 5 計画力 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 6 実習方法・資料選択 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 7 ワクジョント | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 8 説明の技術 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 9 ノンバーバル技術 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 10 説明力 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 11 説明の基準化 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 12 実習実力 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 13 計画・実現 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 14 プレゼンテーション技術 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 15 営業の基準化 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 16 実習実力 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 17 実習への基準化 | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 18 実習への基準化(実質化) | 12 | 12 |
| 授 業 評 価 方 法 計 画 力 | 19 実習への基準化(内実化) | 12 | 12 |



4



5

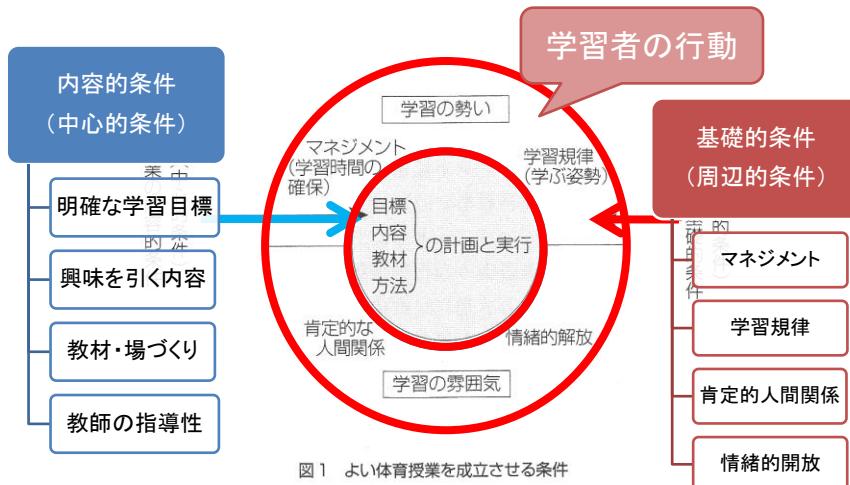
授業づくりのチェックポイント

- ・学習指導要領～学習評価まで
- ・基礎的条件と内容的条件
- ・学習過程の逆向き設計
- ・カリキュラム・マネージメント
- ・指導内容は技能のみでなく、態度、思考・判断がある。指導すべきは、それらのもととなる知識。
- ・評価は、表出する姿を観察、記述や言語から
-

6

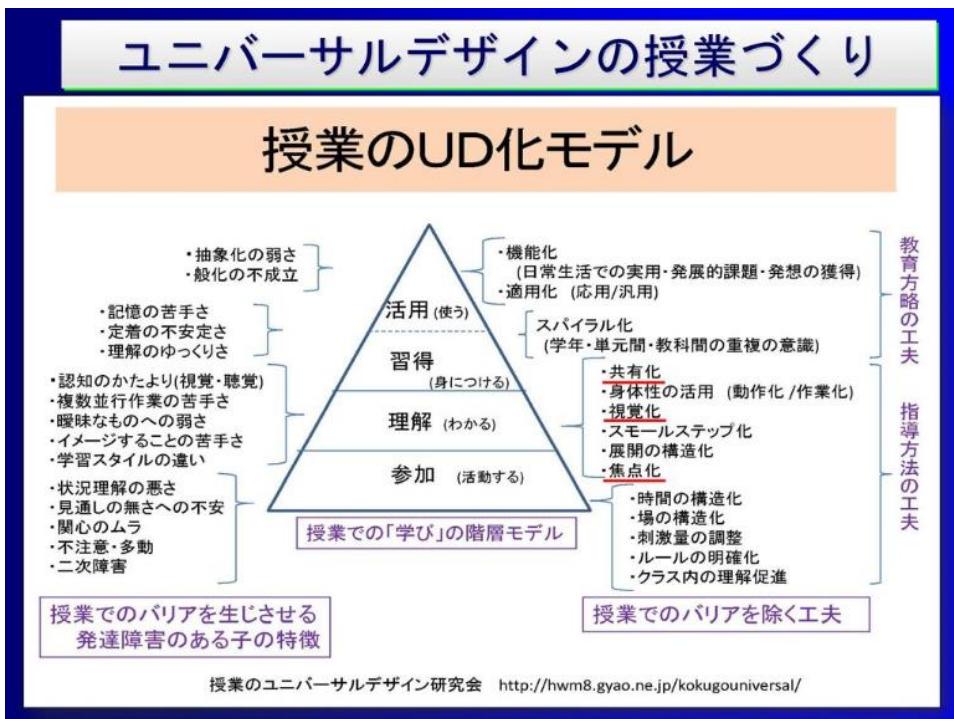
6

よい体育授業の二重構造



高橋健夫先生資料より

7



8

観点別評価に対するディスカッション



9

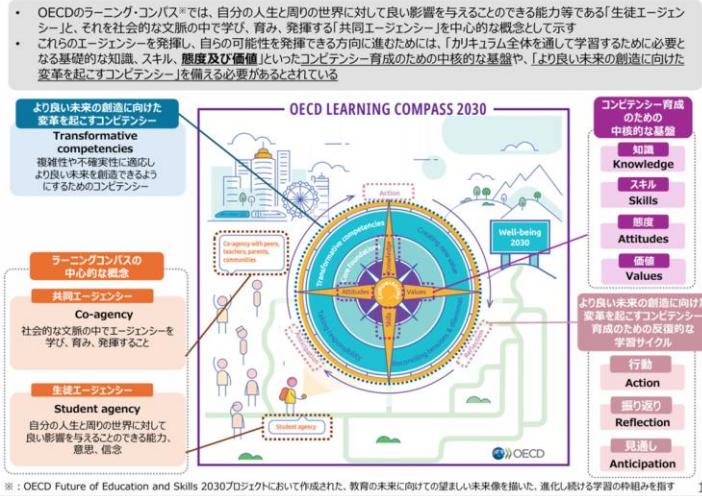
(297) Number9(桐蔭学園)⑦ICTを利用して「運動ができる人はOK」を乗りこえる体育科の事例集(桐蔭横浜大学) - YouTube



10

2. Society 5.0の中の教育の変化

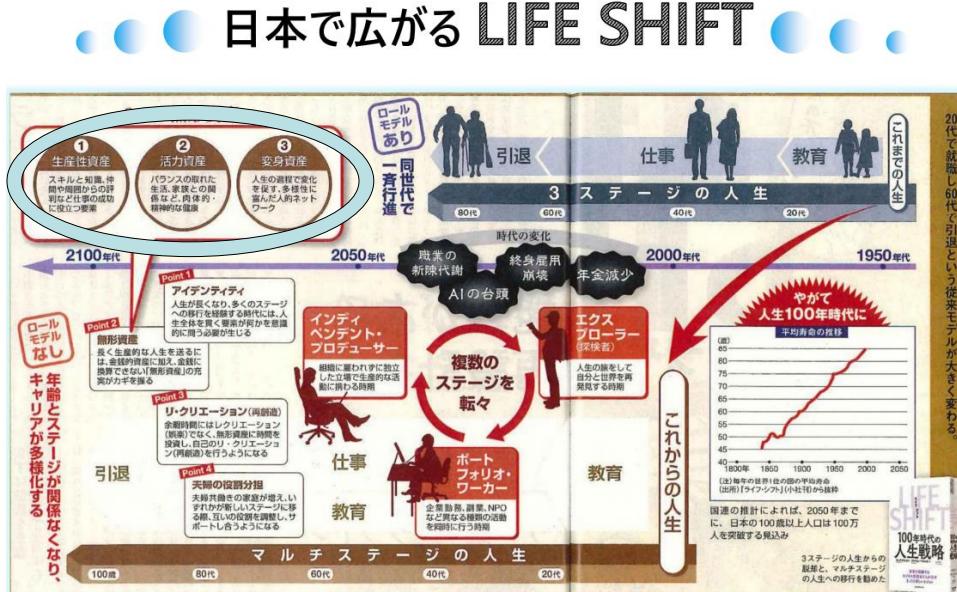
OECDにおける「態度や諸価値・非認知的能力」の位置づけ



1

11

11



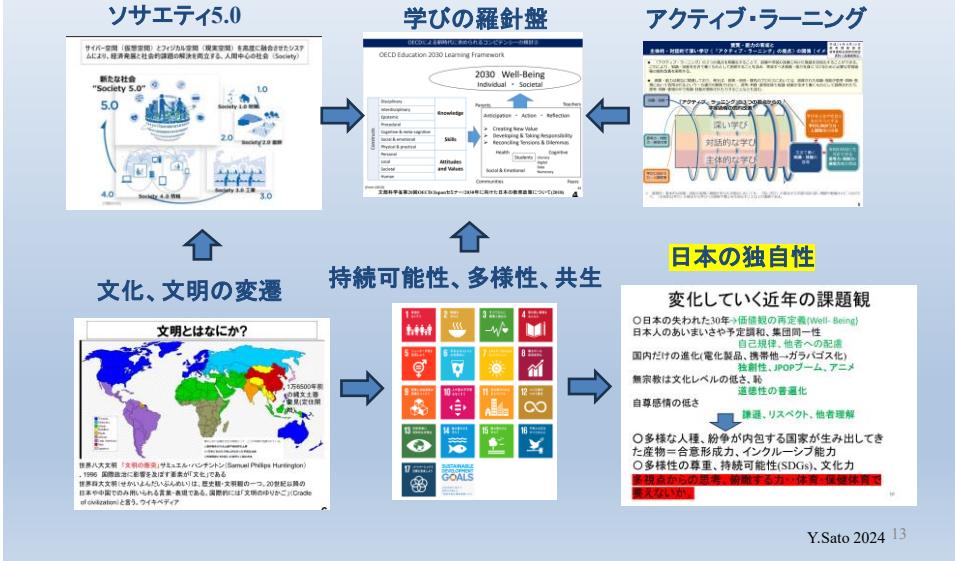
4

[出典]2017.7.22 週刊東洋経済

文部科学省第20回OECD/Japanセミナー/2030年に向けた日本の教育政策について(2018) 12

12

教育の方向性を日本という特異性を加味して俯瞰してみる。 不易と流行から



13

資料 1-3 ウエルビーイングの向上について（第4期教育振興基本計画参考資料）

ウエルビーイングとは

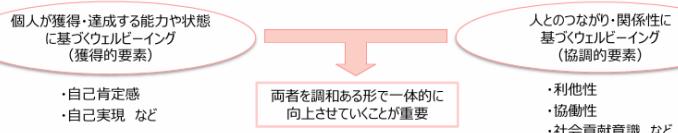
- **身体的・精神的・社会的に良い状態**にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることを含む包括的な概念。

なぜウエルビーイングが求められるのか

- 経済先進諸国において、GDPに代表される経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている。
- OECD（経済協力開発機構）の「Learning Compass2030（学びの羅針盤2030）」では、個人と社会のウエルビーイングは「私たちが望む未来（Future We Want）」であり、社会のウエルビーイングが共通の「目的地」とされている。

日本発・日本社会に根差したウエルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、**自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素**と、**人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素**を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「**調和と協調**」に基づくウエルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められる。



⇒日本の特徴・良さを生かし、「**調和と協調（Balance and Harmony）**」に基づくウエルビーイングを日本発で国際発信

【例：インドネシアG20教育大臣会合・議長サミー】

（略）to work towards the achievement of **balanced and harmonious oriented well-being and universal quality education by 2030**.

14

7

次に掲げる事項について、別添理由を添えて諮問します。

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について

令和6年12月25日

文部科学大臣臨時

資料1-3

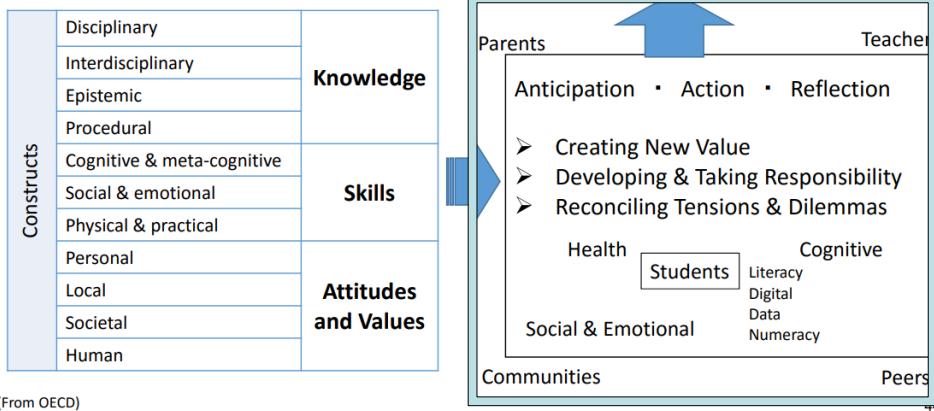
「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」
(諮問)
参考資料

15

OECDによる新時代に求められるコンピテンシーの検討②

OECD Education 2030 Learning Framework

2030 Well-Being Individual · Societal



(From OECD)

文部科学省第20回OECD/Japanセミナー/2030年に向けた日本の教育政策について(2018)

16

16

論点④
資料

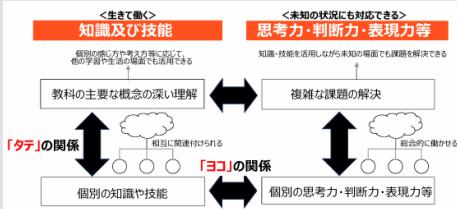
学習指導要領の構造化を進める に当たっての諸論点

19

本日の議論の前提

第二回で議論された方向性

各教科等の「中核的な概念・方略」を中心に、
学習指導要領の一層の構造化を図ることが必要
⇒「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」
それぞれに応じた構造化を図るため、「中核的な概念・方略」の具体について検討を進めるべき。



検討を深めるべき論点①

各教科等の「内容」に記載のある「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」については、構造化の方向性が確認されたが、主に「目標」に記載されている「学びに向かう力、人間性等」については、資質・能力の柱の重要な一つとして明確化を図るべき点はないか。

検討を深めるべき論点②

前回改訂で位置づけられた各教科等の特質に応じた「見方・考え方」と、今回新たに整理する各教科等の「中核的な概念・方略」、また個別の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の関係性をどのように整理すれば、学校現場の授業づくりを支える上でシンプルで分かりやすいものとなるか。

20

OECDによるカリキュラム・オーバーロードの定義

資料 1-3

カリキュラム・オーバーロードについて

4 types of curriculum overload issues

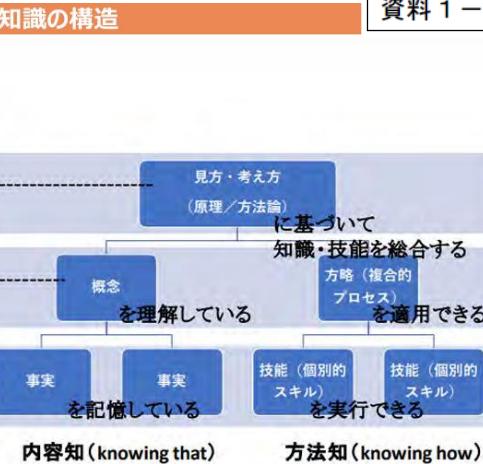


【出典】今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第8回）
OECD（経済協力開発機構）提出資料より

124

21

資料 1-3



【出典】今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会（第12回）
石井英真委員提出資料より

59

22

「中核的概念（ビッグアイデア）」を通じた教育課程の構造化は世界

資料 1-3

- ◆ 近年カリキュラムの全面改訂を行った国・地域において、しばしば各教科の学習の中核となる概念（いわゆる「ビッグアイデア」）の下で内容の整理が行われている。OECDが2020年に公表した報告書「カリキュラムの（再）デザイン」では、「12のカリキュラムのデザイン原則」が提示され、「ビッグアイデア」を用いてカリキュラムを構造化することが原則の一つとして位置づけられている。



①教科内のデザイン原則

1. Focus (焦点化)
2. Rigour (知的挑戦)
3. Coherence (一貫性)

②教科横断のデザイン原則

4. Transferability (転移可能性)
- 子供たちが特定の教科における基盤となる概念やビッグアイデアを理解し、それらどのように他の教科に適用できるかをわかるようにカリキュラムを構造化する
5. Interdisciplinary (教科横断性)
6. Choice (選択肢)

③社会に開かれたデザイン原則

7. Authenticity (真正性)
8. Flexibility (柔軟性)
9. Alignment (整合性)

④過程に関するデザイン原則

10. Engagement (参画)
11. Student Agency (生徒のエージェンシー)
12. Teacher Agency (教員のエージェンシー)

（各国の事例）

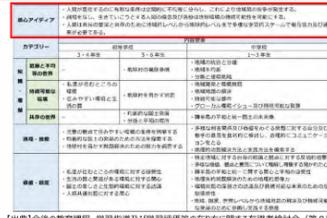
ブリティッシュコロンビア州（カナダ）

教科内の設計化が行われ、学習分野における理解の中心となる内容を記述したビッグアイデア（専門的知識を理解するための鍵となる概念、原則、理論等）に沿って整理された。（2016年）



韓国

「核心アイデア」を新たに設定して内容体系の枠組みの全面的な見直しを実施。「内容要素」「知識・理解」「過程・技能」「価値・態度」の3カテゴリーで再構築し、教科固有の思考や探究過程を明示し、核心アイデアを中心に入内容要素を関連づけて、「深みがある学習」の実現を目指している。（2022年）



シンガポール

・一部教科（理科（2023年実施）、人格・市民性教育（2021年実施））において、「ビッグアイデア」に基づき内容整理が行われている。
・理科では、各分野共通の「ビッグアイデア」（多様性・循環・システム・相互作用・エネルギー）の下で学習内容を相互に関連付けた構成となっている。

オーストラリア

・8つの学習領域（教科に相当）全てで、必要不可欠な内容や核となる概念に「焦点を当てた内容の再構成」を実施。これにより、教員が教える児童生徒が学習を期待されるとした「学習内容の記載（content descriptions）」の分量が21%削減された。（2022年）

60

23



文部科学省

令和7年10月3日

体育・保健体育、健康、安全WG

参考資料 4

令和7年9月25日

中央教育審議会

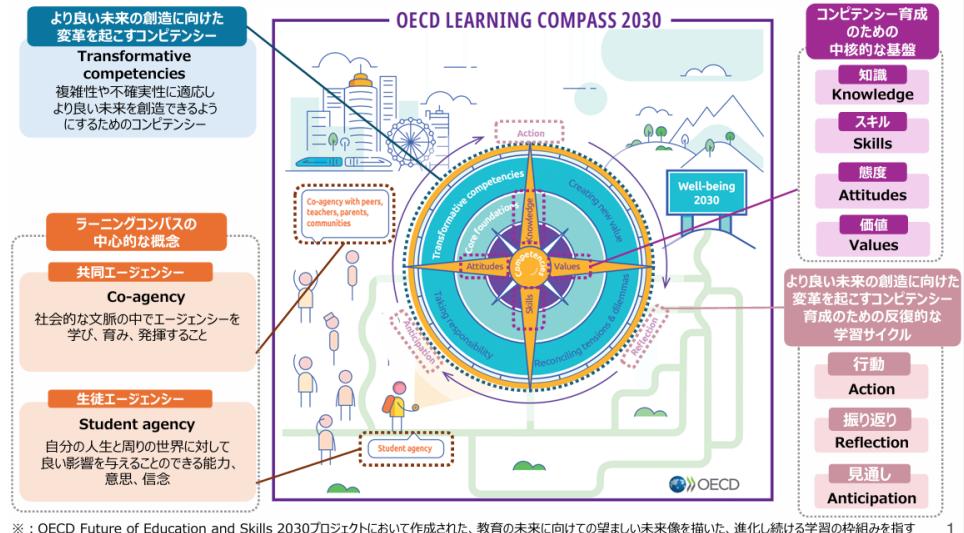
教育課程企画特別部会

論点整理

24

OECDにおける「態度や諸価値・非認知的能力」の位置づけ

- OECDのラーニング・コンパス※では、自分の人生と周りの世界に対して良い影響を与えることのできる能力等である「生徒エージェンシー」と、それを社会的な文脈の中で学び、育み、発揮する「共同エージェンシー」を中心的な概念として示す
- これらのエージェンシーを発揮し、自らの可能性を発揮できる方向に進むためには、「カリキュラム全体を通して学習するために必要な基礎的な知識、スキル、態度及び価値」といったコンピテンシー育成のための中核的な基盤や、「より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー」を備える必要があるとされている

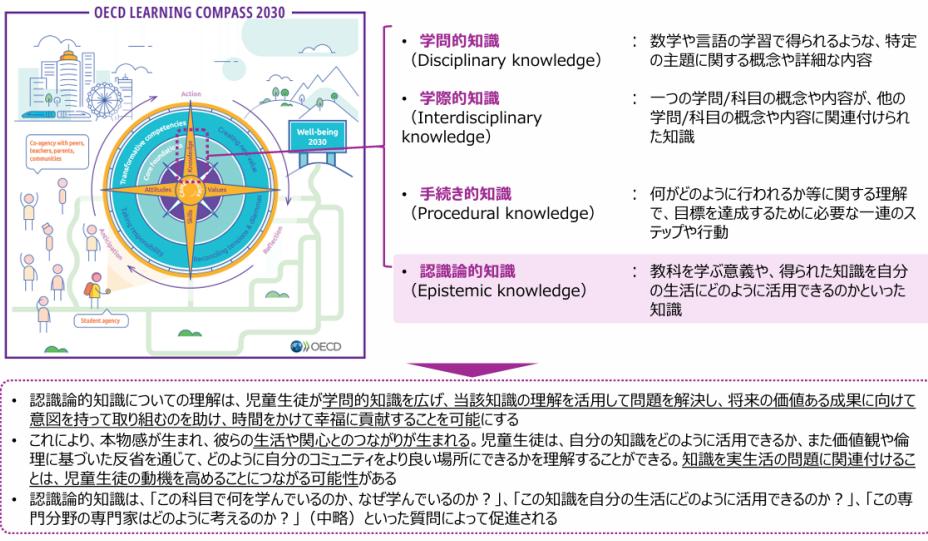


1

25

OECDにおける「見方・考え方」に関連する概念の位置づけ

- OECDは、ラーニング・コンパス※の要素である「知識（Knowledge）」の中に、教科を学ぶ本質的な意義に近いものとして、「認知論的知識（Epistemic knowledge）」を位置付けている。



5

26

体育・保健体育、健康、安全 ワーキンググループにおける 検討事項等について

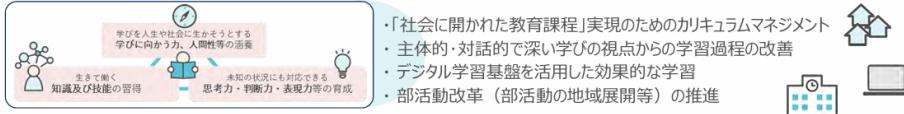
27

体育・保健体育等に関する社会や学校等の状況

1. 社会の状況



2. 学校の状況



3. 子供たちの状況

- 運動に関しては、体育の授業等を通じて、運動好きな子供や日常から運動に親しむ子供を増加させ、生涯にわたって運動やスポーツを継続し、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質や能力の育成が図られている。
- 一方で、卒業後も運動やスポーツを行いたいと考える子供の二極化や男女で運動・スポーツの実施に関して肯定的な回答の割合に差が見られるなどの課題が見られる。また、体力調査の結果においても、全体としてコロナ禍前の水準には戻っていない。
- 健康に関しては、性や薬物等に関する情報の入手が容易になるなど、子供たちを取り巻く環境が大きく変化している。また、食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや朝食欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満や生活習慣病、食物アレルギー等の健康課題が見られる。
- 様々な自然災害の発生、SNSの普及に伴う児童生徒等の被害や性犯罪・性暴力、熱中症や水難事故といった課題が近年顕在化しており、子供を取り巻く健康・安全に関する環境の変化が激しい。

1

28



体育・保健体育、健康、安全に関する現状と検討課題

1. 運動に関する課題

- 少子化を含む人口構造の変化や社会のデジタル化が加速する中、健康長寿社会や共生社会の実現、人との豊かな繋がりの創出など、運動・スポーツを通じた社会課題解決への期待が高まっており、令和7年にはスポーツ基本法が改正された。こうした状況を踏まえ、学校における運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値を今一度検討し明確化する必要がある。
- 幼児期からの発達段階を踏まえた系統的な指導と評価の在り方にについて、指導内容が過度に高度なものとなってないか、また、評価は適切なものとなっているか、学校における運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値を踏まえ検討する必要がある。
- デジタル学習基盤の活用について、「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図る観点からその方策をさらに検討する必要がある。

2. 保健に関する課題

- 教師の保健の指導内容に対する意義や重要性の認識は高いものの、子供を取り巻く現代的な健康課題は絶え間なく変化するとともに多岐にわたって存在しており、疾病構造や健康課題の変化に対応できる資質・能力の育成が一層求められている。
- 日常生活において認識しにくい内容に関する知識及び技能や、健康の原則・概念と具体的な生活行動とを結び付ける思考力、判断力、表現力等の育成について課題が見られる。

3. 安全に関する課題

- 安全に関する基礎的な知識の習得は高いものの、日常生活における多様な危険や事故に対して行動化する実践力の育成については課題が見られる。また、安全で安心な社会づくりに参加・貢献するため、主体的・協働的な取組を促す学習の充実について工夫と改善が求められている。
- 近年顕在化している社会構造の変化に伴う現代的課題を含めた様々な課題に対応できる資質・能力の育成が一層求められている。

4. 指導に関する環境面の課題

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた着実な指導を行う上で、教師の負担にも配慮しつつ、外部人材の活用や外部機関との連携が図られている一方、人材の確保や連携に係る調整等に関する課題が見られる。
- 気候変動の影響により、運動・スポーツの実施に関して、場所、時間、内容に影響が生じている。
- 運動・スポーツに関する授業を安全かつ効果的に行うためには適切な活動場所等の確保が必要である一方、施設等の老朽化やスペース不足、天候への対応について課題が見られる。

2

29

ワーキンググループにおける検討事項・論点

1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項

- #### 1. 体育科・保健体育科を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方
- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の示し方
 - 中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化や、その過程における必要に応じた精選のあり方
 - 体育科・保健体育科の特質を踏まえた、表形式を活用した目標・内容の分かりやすい示し方

- #### 2. 体育科・保健体育科の指導と評価の改善・充実のあり方
- デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした、体育科・保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための方策
 - 資質・能力の育成のために効果的かつ過度な負担が生じにくい体育科・保健体育科の評価のあり方

- #### 3. 誰一人取り残さず資質・能力を育む柔軟な教育課程のあり方
- 義務教育における調整授業時数制度や、高等学校における科目的柔軟な組み替えを可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫のあり方
 - 教育課程の柔軟化に伴って生じうる課題とそれを防ぐための運用のあり方

2. 体育・保健体育、健康、安全に関する課題を踏まえた固有の検討事項

1. 運動に関する課題

- 運動・スポーツに関する学びの本質的な意義や価値の明確化
- 幼児期からの発達の段階等を踏まえた系統的な指導内容のあり方
- 指導内容として示してきた「態度」の考え方
- デジタル学習基盤の効果的な活用のあり方

2. 保健に関する課題

- 子供を取り巻く現代的な健康課題や学ぶ価値・意義を踏まえた発達段階に応じた学習内容(教科等横断的な視点を含む)
- 保健の中核的な概念や具体的な生活行動等との関係性に関する分かりやすい示し方

3. 安全に関する課題

- 学んだ知識を日常生活で行動化する実践力を身に付けるとともに、安全で安心な社会づくりに参加・貢献するため、主体的・協働的な取組を促す学習の充実
- 社会構造の変化に伴う現代的課題を含めた様々な課題に対応できる学習内容(教科等横断的な視点を含む)

4. 1～3を実現する上で環境整備に関する課題

- カリキュラム・マネジメントの観点等を踏まえた、外部人材の活用や外部機関との連携
- 気候変動の影響等を踏まえた、運動・スポーツの実施機会・場所の在り方など、持続可能性の確保

3

30

第1回「体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ」

桐蔭横浜大学 佐藤豊

<改訂に向けた基本的な考え方>

- ①「主体的・対話的で深い学び」の実装
- ②多様性の包摂
- ③実現可能性の確保

自らの人生を舵取りする力（興味・関心）
民主的持続可能な社会での創り手

個人と社会の
ウェルビー
ングの実現

体育科・保健体育科は、学校教育として何を保証、貢献するのか。
① 健康で生き生きとした人生を送る基盤づくり・・様々なスキルの育成
② 運動やスポーツとの多様な関わり方を通した「生きがい、自己実現」
としての豊かなスポーツとのつながり(文化としてスポーツを享受できる力)
=ライフワークバランスをとり、人と関わり自分らしくいきいきと紡ぐ人生

○見方・考え方への柱(体育)

運動やスポーツが
有する楽しさ、多
様な価値や意義(内
在的価値)と利益(外
在的価値)がある

○中核となる概念検討の柱

知・徳・体(教育基本法)
心と体は相関している
非認知能力の重要性
公正、協力、責任、参画、共生 ETC

○ワーキングの視点

- ①教育の共通性と教科
の独自の学びのバランス
- ②保健と体育の往還
- ③現行要領の分析的省察
(内容の体系化及び各
校種の成果と課題)

31

改定時の検討の視点

①「シーケンス(縦)」の視点

バックワード・デザインでの検討

- 生涯にわたる多様で豊かなスポーツライフ(ゴールはどこか?)
- ・学校(幼~大学)、卒業後のライフステージ、スタイルからみた
初等中等教育(12年間)の系統性と期間目標(444)
- ・2年間ごとの知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等
の重点とバランス

②「スコープ(横)」の視点

- ・カリキュラム・マネジメント・授業、保育連携、教化外(教科で指導すること)
- ・発達の段階に応じた指導目標、内容の重点化

・校種ごとの独自性と特徴

小) 全教科の指導・体育学習コーディネーター(専科制の検討)

体育分野を含む電子教科書、教材等の充実の検討)

中) 中1ギャップ、科学的理解の概念化、部活動地域展開による授業の重要度

高)共通性と多様性・卒業時に身に着けたい資質・能力(技能中心指導でよいか)

・指導の接続、全ての子供に対する配慮、ICT活用(センシング等の安全対策を含む)

・領域の独自性(各領域を学ぶ意味)と統合(資質・能力の育成)のイメージの共有

指導の基準と実際の往還による検討(演繹と帰納)

- ・答申を踏まえること
- ・学習状況調査等の公表された
成果と課題を踏まえること

32

体育科(運動領域)・保健体育科(体育分野)の内容検討経過から見た成果と課題

平成20年 健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会

「全ての子どもに身につけさせたいミニマムとは?」

- ①身体能力、②態度、③知識、思考力・判断力として整理

平成20,21年 学習指導要領改訂

- ・専門部会答申を受けて、校種のゴールイメージと指導内容の検討
- ・12年間の体系化(校種の接続、系統性(縦)と領域(横)のつながり)を整理
- ・内容の明確化(評価規準の参考としての例示を示す)

平成23.24年 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

平成25年 学習指導要領実施状況調査

- ・体ほぐし運動の目的理解、動きの理解(小)、武道・ダンス、器械運動(中)

平成29-31年 学習指導要領改訂

- ・評価の観点の変更(教科の共通性→資質・能力育成)
- ・思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性等の例示
- ・態度(共生の指導内容等の充実)と資質・能力育成のバランス重視

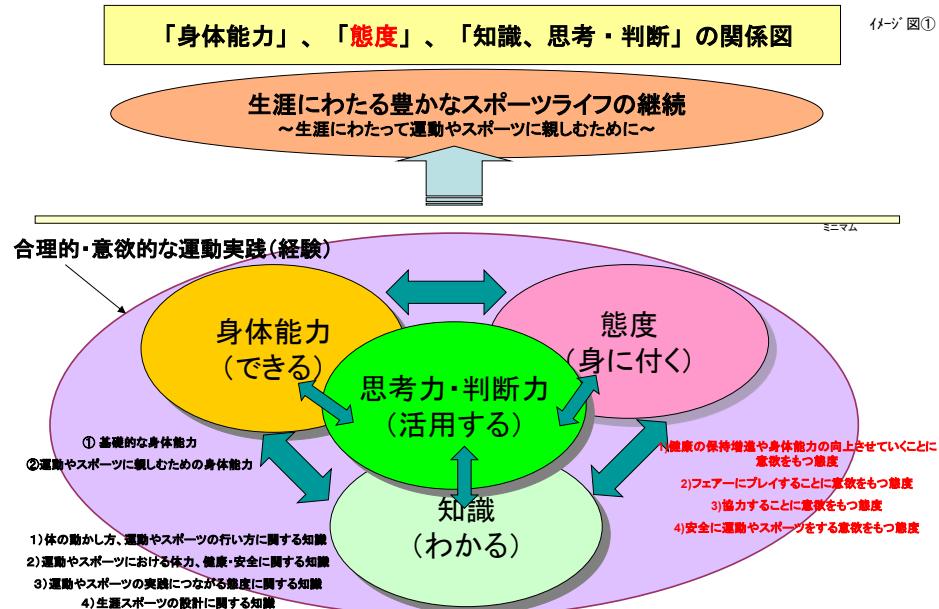
令和2年 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

令和4年 学習指導要領実施状況調査

- ・態度指導の充実、体ほぐし運動の目的理解

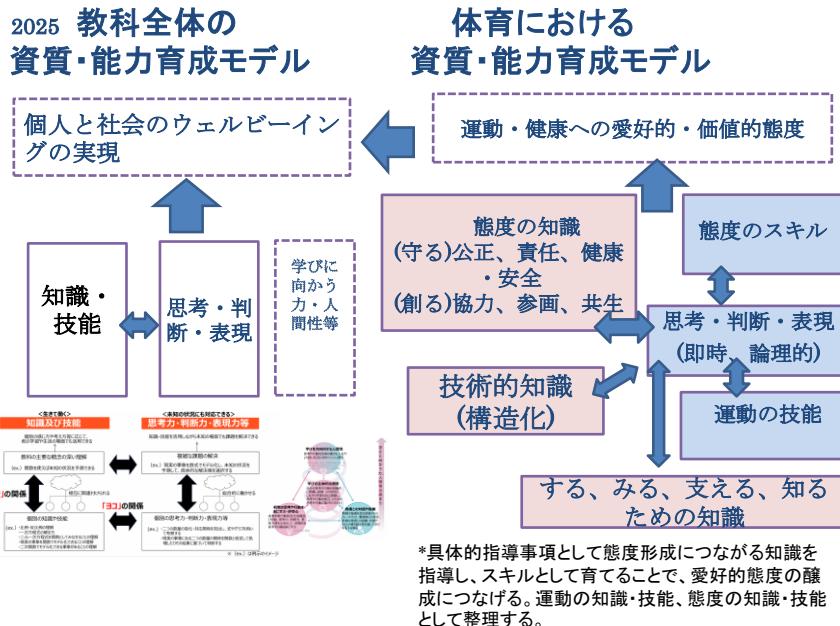
33

出典:健やかな体を育む教育の在り方に関する専門部会
体育分野ワーキンググループにおける審議検討について(平成20年3月11日(参考イメージ図))



34

知識を重点とした教科と技能を重点とした教科の評価の観点の違いイメージ(未定稿)



35

3. 体育科・保健体育科は何を教えるのか?



36

教科の見方・考え方(体育)

各種の運動やスポーツが有する楽しさや喜び及び関連して高まる体力などの視点から、自己の適性等に応じた多様な関わり方を見いだすことができるようになることが、体育分野での学習と社会をつなぐ上で重要なものである。



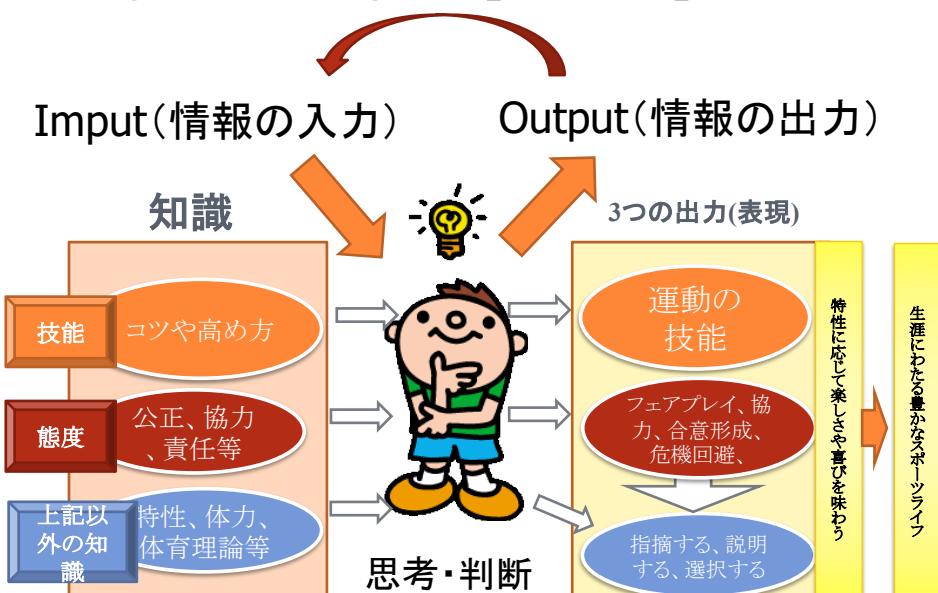
する、みる、支える、知るなどの多様な楽しみ方

37

37

学習したことの意義や価値を実感できるようにする(ア)

体育学習の「わかる」と「できる」 2015,SATO



38

2017中学校保健体育解説 p37

具体的な知識と汎用的な知識を関連させて理解できるようにするとともに、運動の行い方や健康・安全の確保の仕方などの科学的知識を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることでその理解を一層深めたりするなど知識と技能を関連させて学習できるようにすることが大切である。

また、各領域の指導においては、体育理論の「する、みる、支える、知る」などの運動やスポーツへの多様な関わり方などや、体つくり運動の運動を継続する意義などの汎用的な知識とも関連を図ることが重要である。

「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く知識・技能)の獲得」

「知識、一歩一歩、学び、発展、実践する過程で知識と技能を獲得する」

例えば、「何年にこうした出来事が起きた」という歴史上の事実的な知識は、「その出来事はなぜ起きたのか」や「その出来事がどのような影響を及ぼしたのか」を追究する学習の過程を通じて、当時の社会や現代に持つ意味などを含め、知識相互がつながり関連付けながらも既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容(特に主要な概念に関するもの)の深い理解と、個別の知識の定着を図ることとともに、社会における様々な場面で活用できる知識として身に付けていくことが重要となる。



39

何を教えるのか(概念)
どのように(方法)
何が身に付くのか(具体)

後転 トンッ クルッ シャキッ

始め 中 終わり

・手は耳のよこ。
・わきをしめる。
・お尻をとおくにつけれる。
・せなかを丸めて・手をつきはなし回る。
・つま先を頭のうしろにぶら下げる。
・しゃがみ立ち。

概念知 教師の視点

マット運動 回転系 接点技群

順次接地 回転力

教師の声 掛け 局面・全体の流れ

練習方法を選ぶ、見つける

「ゆりかご」で「背中が滑らかについているか」を確認してみよう

方法知(改善の方法)
順次接地・・ゆりかご
回転力・・斜めの場、サポートでの 加速、突き放し
局面修正・・相互観察、ICT

40

楽しさや喜び

低学年…各種の運動を**楽しく**できるようにするとともに、その基本的な動きを身に付け → **楽しさに触れ**

中学年…各種の運動を**楽しく**できるようにするとともに、その基本的な動きや技能を身に付け → **楽しさや喜びに触れ**

高学年…各種の運動の**楽しさや喜び**を味わうことができるようになるとともに、その**特性**に応じた基本的な技能を身に付け、 → **楽しさや喜びを味わい**

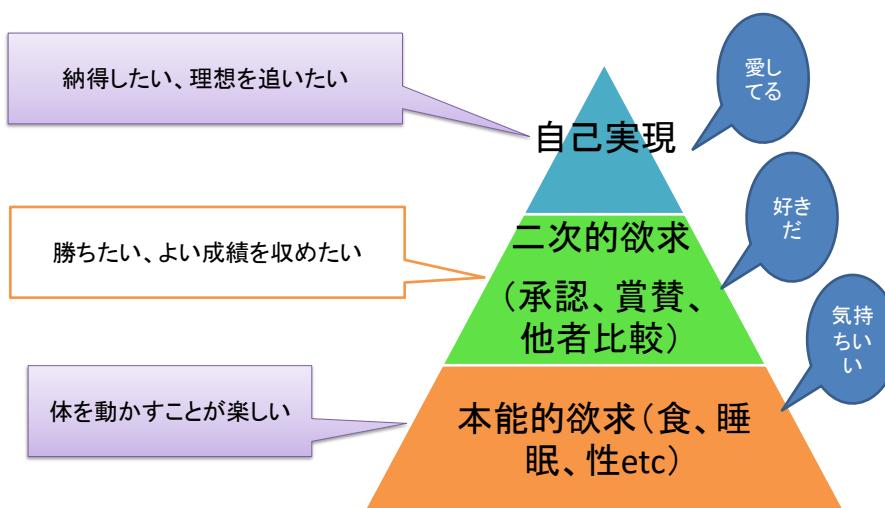
中学校 「運動の**楽しさや喜び**を味わうことができるようとする」とは、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、運動を**楽しんだり**、その**運動のもつ特性や魅力に触れたり**すること

楽しさ…体を動かす心地よさ

喜び…運動特性に触れる喜び

41

楽しさを深く味わうために

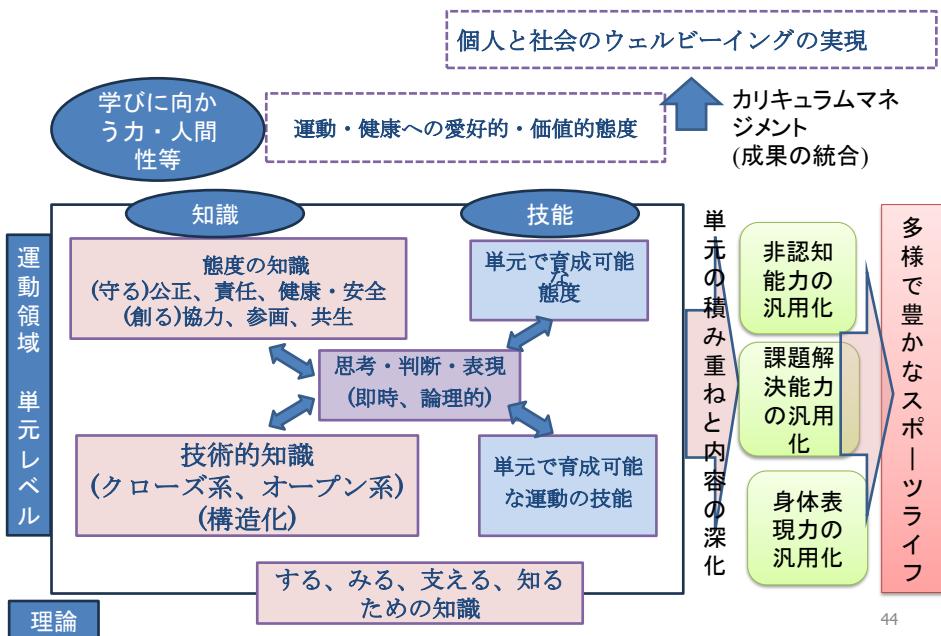


42



43

体育における内容及び学習評価対応イメージ案(佐藤)

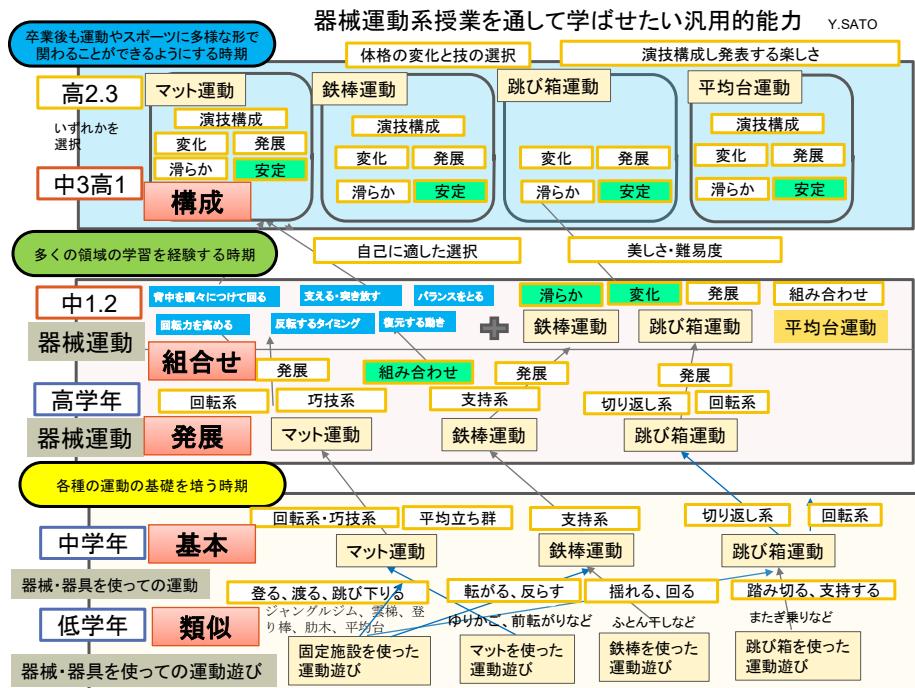


44

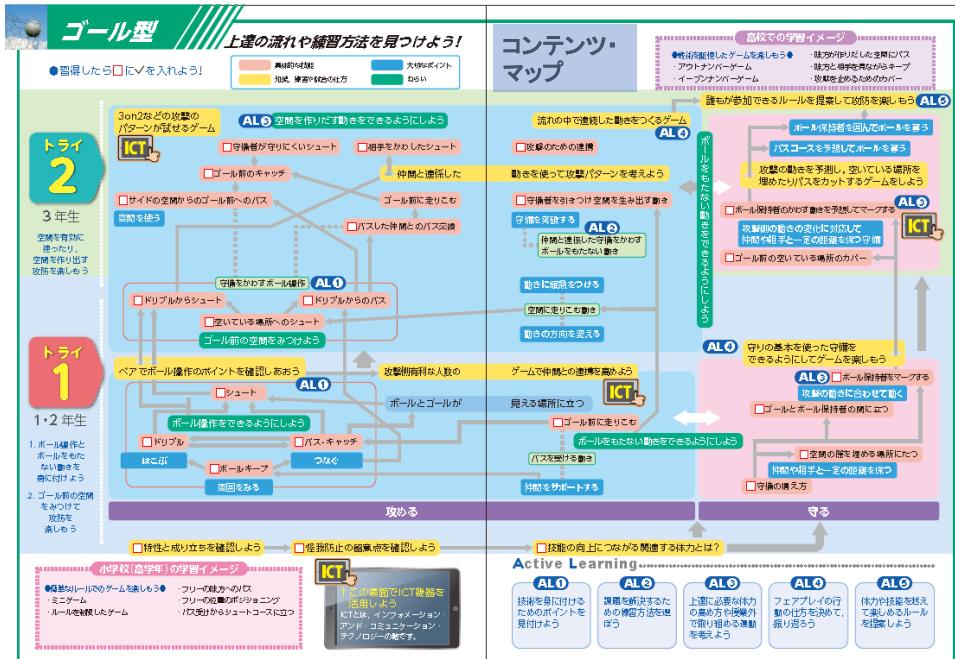
44



45



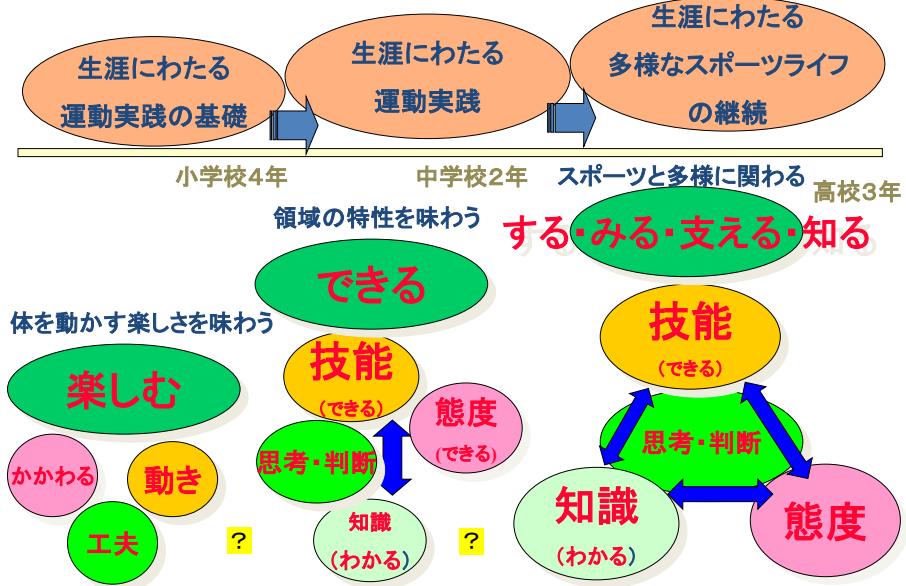
46



新学社 ワンダフルスポーツ 2019~版原稿より

47

育成の重点の変化モデルの検討(4.4.4に応じて)



*発達の段階に応じた育成モデル(外発→内発、単純→構造的、スパイラル、校種の教育文化)などの視点も必要。

48

48